

3. ワークライフバランス



産前産後休業、育児休業、介護休業などの制度を充実させ、個々のライフスタイルに合わせた柔軟な働き方を推進しています。



産後パパ育休を取得。
仕事は好き。
だけど家族は大切です。

経営管理本部 情報統括部 チーフマネージャー
久保 直之さん

家族からの希望で4週間の育休へ

2人目の子どもが生まれた時、家族の負担を考えて産後パパ育休を取得しました。期間は2回に分けて合計4週間。業務が滞らないか悩みましたが、家族からの希望があったこと、単身赴任中のため朝も晩も不在となり一切フォローができないことから取得を決めました。上司や同僚に快諾いただき、とてもありがたかったです。

家事・育児の大変さを改めて実感

それまでも家事の分担はしていましたが、普段自分が携わっていない部分を担当することで、妻の大変さがよくわかりました。例えば配膳はお皿選びから始まりますし、子どもにごはんを食べさせようにもなかなか言うことを聞いてくれません。保育園に送っていく日は朝の準備にやきもきすることも……これまですべて妻が身重の状態で行っていたことに改めて感じ入りました。

家族とじっくり向き合う時間に

上の子を保育園に迎えに行っても園庭で遊んでなかなか帰ろうとしなかったことなど、育休中の子どもとのやりとりは良い思い出になりました。また、育休期間は普段は共働きしている妻といろいろなことを話す機会にもなりました。「こんなに長い時間一緒にいるのは結婚してから初めて」という妻の言葉が印象に残っています。

育休取得が職場の組織力向上のきっかけに

育休中は、部下たちが積極的に業務に対応してくれました。そのことから、今まではつい手出ししていたことも、信頼して任せられるようになりました。自分が一歩引くことにより、結果的に部内全体の組織力向上につながったように思います。誰が休暇を取っても業務がスムーズに進む状況をつくり出し、私自身も家族や体調を大切にしながら仕事に臨んでいきたいです。

実績

産休・育休取得者は100%復職し、引き続き育児短時間勤務制度を取得しています。

産休・育休取得人数および日数

(人数)

年度	産休		育休			
			女性		男性	
	人数	日数	人数	日数	人数	日数
2021年度	2	91	3	470	1	28
2022年度	1	44	1	69	—	—
2023年度	2	74	2	349	1	19

育児短時間勤務制度 取得人数

2021年	2022年	2023年
8名	8名	8名

介護短時間勤務制度 取得人数

2021年	2022年	2023年
2名	2名	1名

有給取得率

64.5%

※厚生労働省の「就労条件総合調査」
2022年の1年間取得率は62.1%

※取得率100%（申請ベース）